

医療記録における縮約表現の分析

東条佳奈(大阪大学), 黒田航(杏林大学), 相良かおる(西南女学院大学),
西嶋佑太郎(医師), 麻子軒(関西大学), 山崎誠(国立国語研究所)



Language Resources Workshop

2022

1. はじめに

- 医療記録内には、以下のような圧縮的な表現が見られる。
例) 「未熟児室入室」(未熟児室へ入室する)
「持続点滴実施」(持続点滴を実施する)
「発汗著明」(発汗が著明である) など
- 本発表では、医療記録作成時に生産される、圧縮的な表現を「**医療縮約表現**」とし、語末の要素に着目して特徴を分析する。

3. 調査・分析手順

①「医療縮約表現」の抽出

- 実践医療用語辞書ComeJisyoUtf8-3の見出し語より医療記録文に1回以上出現した語について先行研究(林1982,石井1993,2007)を参考に、**語末の要素がサ変語幹・形容動詞語幹・副詞可能名詞・接辞となる複合名詞を抽出。病名や医療行為であるものを除き、5,690語を「医療縮約表現」として選定した。**

②「医療縮約表現」の分析

- 医療縮約表現に形態素解析を施す(一部目視で確認)
- 語末の要素のみ集計し、高頻度の語例を調査する(表1)
- 語末の要素を『分類語彙表一増補改訂版』と照合し、どのような意味領域にあたる語例が多いのかを調査し(表2)、表1の語例の意味領域はどのようであるかを確認した(表3)

◆医療縮約表現の量的構造に関して、P3-7にて関連発表あり

4. 調査結果

表1 高頻度の語例(語末)

順位	語末の要素	頻度
1	後	311
2	施行	176
3	部	171
4	中	148
5	開始	142
6	時	134
7	低下	86
8	投与	85
9	予定	80
10	上昇	65

- 語末の要素833種中、1回のみ出現したものが366、2回以上出現したものが467あった。
- 「後」は主に時間的な順序を示しており、開始、摂取、内服、投与、〇〇術…といった医療行為などに続いて「～のち」の意味で用いられる。
- 「部」は「水疱やぶれ部」「留置針刺入部」のように、着目したい部分を示す際に用いられる。
- 「中」は「抗生剤内服中」のように、今現在している途中という意味合いのものが多い。
- 多義の一字漢語も、概ね意味は固定して使われているといえる。

表2 意味領域別にみた語例(語末要素)の分布**

分類番号・分類項目名	種類数
1.3831_医療	21
1.1580_増減・補充	17
1.1531_出・出し	10
1.1532_入り・入れ, 1.1560_接近・接触・隔離, 1.3065_研究・試験・調査・検査など, 1.5710_生理, 1.5721_病気・体調	8
1.1500_作用・変化	7
1.1211_発生・復活, 1.1251_除去, 1.1563_防止・妨害・回避, 1.3331_食生活	6

**上位10のみ示した。なお、表2では分類番号が複数該当した要素と、該当する分類番号なしのものは未反映となっている

- 医療、生理、調査、病気・体調など、分野の特徴を示す語が多い
- 医療やそれに関わるもの以外の意味領域では、「増減・補充」や「出・出し」などにあたる語が多かった。

増減・補充の17語 : 増量, 増加, 減量, 減少, 追加, 軽減, 増大, 増殖, 充填, 補充, 漸減, 増設, 付加, 付け, 蓄積, 添加, 急増

表3 表1の高頻度の語例(一部)が該当する意味領域と、その種類数

順位	語末	頻度	分類番号	種類数
1	後	311	1.1643/1.1650/1.1670/1.1740	1
2	施行	176	1.3430_行為・活動	4
3	部	171	1.1940/1.1962/1.2700/1.2760	1
4	中	148	1.1101/1.1652/1.1720/1.1742/ 1.1770/1.1912/1.192/1.259/1.3046	1
5	開始	142	1.1502_開始	2
6	時	134	1.1600/1.1611/1.1690/1.1962	1

- 施行・開始の使用頻度が高い
例) 退院オリ施行、様子観察施行、シーツ交換施行
抗がん剤開始、ミルク注入開始、モニタリング開始
- 同じ意味領域内で特定の語例に用例が集中している
→表現がパターン化している可能性

- 1.3430_行為・活動にあたる要素は4種あるが、「施行」176例に対して、実施21例、行動15例、励行3例と差がある。
- 同じく、「開始」と意味領域が同じ要素には「再開」があったが、14例

[医療的行為]を行った
→ [医療的行為] 施行
[薬剤等]を投与し始めた
→ [薬剤等] 開始

5. 医療記録文における医療縮約表現

- 医学分野の文章の書き方指南書である林(2014:51-53)では、複数の動詞や名詞を連続すると読みにくくなると指摘し、このような単語の塊は避けるべきだとして改善例が示されている
例) ・臨床試験の実施責任者がプロトコルを倫理委員会に策定提出する→提出する(策定に実質的意味なし)
・国内健康被験者対象臨床薬理試験では、
→国内の健康な被験者を対象とした臨床薬理試験では、
- 不適切な書き方とされているのになぜ用いられるのか?
- 医療記録は限られた時間内に伝達を行わなければならない
=誤解のないように迅速に記録することが重要
→定型的な表現になる可能性?
→パターン化しているかどうかについては検証が必要

6. 医療縮約表現は臨時一語とどう関わるか

- 複数の単語を一語化・結合ルールが簡潔で復元が容易・辞書に立項されず臨時的…などの**臨時一語の性質・機能は医療縮約表現にもあてはまる。**
- 臨時一語が現れやすい文章は、凝縮的であるほかに、大量生産的・専門的・概略的・硬い文体という特徴がある(石井2007:264)
→医療記録文も該当する点がある

- 石井(2007:267-268)によれば、臨時一語には、作成の過程が現れない範列的・潜在的な面と、先行単語列と対応して作られる継起的・顕在的な面があると指摘されている。
→本発表は語を対象とした調査のためはっきりしたことはいえないが、**特定の語例に用例が集中していることから、医療縮約表現は範列的・潜在的に作られている語であることが予想される**

7. おわりに

- 医療記録文は、専門的知識を共有する相手へ向けた、現場での出来事の概略を示す、迅速さが求められる文章であるため、臨時一語的な医療縮約表現が現れやすい
- 一方で、主に患者に関わる事柄について、他の医療関係者に伝達するという医療記録の性質から、使われる表現のバリエーションはある程度限定され、定型・パターン化していると思われる。
- 定型化する=**「臨時性」とそぐわない性質を持つ**といえる
- 今後の課題として、パターン化に関する検証、語頭・語中を含めた分析、記録的文章との比較が挙げられる。